日本母子ケア研究会　第 14 回学術・実践報告会のご案内

『長期的な母乳育児支援』

私たち日本母子ケア研究会では、「ラクで楽しい母乳育児」をめざし、様々な視点から母乳育児支援について探求しています。

本来人間は、自然妊娠・出産・母乳育児・自然卒乳を繰り返してきました。第二次世界大戦後、人工乳育児が広まるにつれ「母乳は 1 歳まで」という考え方が、国や医療者からも示されるようになりました。

2002 年母子健康手帳から「1 歳離乳完了」や「断乳」という言葉が削除され、虐待防止の観点からも母乳育児がすすめられ、自然卒乳が受け入れられるようになりました。しかし、今日でも「母乳は 1 歳まで」と言う考え方は根強く残っており、現場の医療者や母親達は混乱しています。

今回は、霊長類の子育てについて研究をされている京都大学の久世濃子先生にご講演頂き、霊長類であるヒトとしての母乳育児の在り方を学び直す機会にしたいと思います。基調講演では、長期授乳のメリットを母と子、それぞれの側面から分かりやすくお話しさせて頂きます。またシンポジウムでは、長期的な母乳育児支援をする中で、出会う問題について事例報告して頂きます。是非ご参加ください。

日本母子ケア研究会会長　伊東厚子

日 時	**平成 25 年 6 月 23 日 (日)AM10：00 ～**	AM 9:40 ～　開場・受付 AM10:00 ～　開会
会 場	横浜市桜木町　はまぎんホール　ヴィアマーレ	
対 象	看護師・保健師・助産師等医療従事者	
参加費	**事前申込【6/14 日 (金) まで】　￥10,000(年会費込)** **※当日申込　￥12,000(年会費込)** 6/15 日 (土) 以降の申込については当日扱いとなります。 詳細は裏面 (P, 4)「申し込み用紙」をご参照ください。	

14：15
～
15：00

◆シンポジウム　コーディネーター　伊東厚子

長期授乳を実践「タンデム授乳を実践された 3 母子の記録」

マタニティールーム伊深　伊深佳洋子

妊娠中も授乳を続け、出産入院中の面会におっぱいをもらい、落ち着けたお子さんの事例2 組と、陣痛が始まってつらい時に、第 1 子にせがまれ「早く止めておけば良かった」と後悔していた母親の事例について報告し、妊娠中の授乳とタンデム授乳について考えたいと思います。

【プロフィール】

大阪赤十字看護専門学校卒業。
日本赤十字社助産師学校卒業。
日本赤十字医療センター産科にて 10 年勤務。
狭山市産婦人科医院にて 15 年勤務。
1996 年 5 月「マタニティールーム伊深」開業。

「私にはつらかったタンデム授乳」

小山自然育児相談所　　神崎久美子

私は長男の授乳中 1 歳 2 カ月のとき、次男の妊娠がわかりました。その後も授乳を続け、長男が 1 歳 10 カ月のとき出産、それからはタンデム授乳を行いました。
兄弟二人の授乳は、私の思い描いていた楽しい授乳ではなく、いつしか母子にとってつらいものへと変わっていきました。
今回、私の経験と相談所での母子の事例を通して、授乳中の月経再来と妊娠・授乳中の妊娠タンデム授乳について考えてみたいと思います。

【プロフィール】

慶應義塾大学医学部付属厚生女子学院卒業。
栃木県立衛生福祉大学校保健学科卒業。
慶應義塾大学で保健師として教職員・学生などの健康管理に従事。
結婚退職後第 1 子出産まで小山市役所で乳幼児健診などにかかわる。
2009 年小山自然育児相談所勤務。
看護師・保健師。

15：00～　◆ディスカッション

16：00　◆閉会